

一心寺かわら版

第四十三号 平成三十年三月発行

ホームページ・ブログ・フェイスブックは「持名山一心寺」で検索

お寺の使命とは

現在、一心寺では様々な活動を試みています。しかし、まだまだお寺として十分なことができていないのは言い難いのが現状です。お釈迦さまは、さとりを開かれてからの四十五年間、出会われた人々の苦しみを取り除き、安らかに生きていく道を説かれました。時代は変われども仏教、お寺が目指すべきものは同じでしょう。「未来の住職塾」というものに参加したのですが、そこで学んだことはまず、使命やビジョンが確立され、それが周りに伝わらなければならぬということです。

そこで、お寺の使命として「**悲しみと喜びを共に、不安から安心へ**」を掲げました。親鸞聖人は「一人居て喜ばは二人と思うべし、二人居て喜ばは三人と思うべし、その一人は親鸞なり」とおっしゃられました。その聖人の精神を体現すべく、浄土真宗の寺院は大きな畳敷きの本堂を構えています。お寺に大勢の人が集い、悲しみと喜びを分かち合い、ともに救われることを願ってきたからです。仏法を通して、いのちのつながりを感じ、生死の真実を見つめることができる場所はお寺において他にないでしょう。

一心寺も、誰もが気軽に訪れることができ、同朋（仲間）となれるお寺（サンガ）になればと願っています。より良いお寺を目指して運営にご協力いただける方が居られましたらお声掛けください。

今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

インターネット相談のご紹介

時代は進んでも、科学が進歩しても残念ながら人生は思い通りにならず、悩みはなくなりません。

以前、いのちの電話の研修会に参加しました。相談者になるには、かなりの研修時間を要します。県内では高松にあり、相談者が一室で電話が鳴るのを待ちます。その場所に待機しなければならぬという性質上、常に人手不足だそうです。恥ずかしながら私たちもみな断念しました。

そんな中、インターネット相談が増えていきます。例えば、「hasunoha（ハスノハ）」。「人生は四苦八苦—あなたの悩み、怒り、苦しみをお坊さんが癒し、救い、たまに一喝します」。

相談すると色々な宗旨の僧侶が誰彼となく答えてくれるという方式。メディアにも取り上げられ、多くの相談が殺到して順番待ちになるほどだそうです。仏教は出世間の教えと言われる。世間とは違った価値観、ものの見方があると気付かされて救われることがあるのではないのでしょうか。自分が相談しなくても、他の方と僧侶との応答を見るだけでも気持ち楽になることがあるかもしれません。

一心寺にも気軽に電話いただければと思いますが、ホームページ上にも窓口があります。本当は悩んでいるその時に、直接話をするとということが大切なのでしょうが、匿名性を保つことができ、このような形も必要なのかもしれない。



一心寺 春からの行事をご紹介

● よるしるべニ〇一八春 もうすぐ開催！



恒例行事となって来た感もある「よるしるべ」。例年は秋開催ですので、二〇一七年はないの？と残念に思っていた方もおられたのでは。今回は初めての春開催。過去二回の瀬戸内国際芸術祭の公式プログラム時の作品はもちろん、毎年新しい要素が加わっています。今年は観音寺市民会館が中心に。また地元グループの竹灯りの展示もあります。

灯りに導かれながら、映像作品などを通して観音寺の歴史、風景、文化に触れる夜のまち歩き。是非ご家族そろってご来場ください。



(昨年の一心寺境内)

● よるしらべニ〇一八春～声明・雅楽コンサート～

今回のメインは「十二礼」。御懺法講(おせんぼうこう・天皇皇后及び皇族方の年忌法要)で用いる礼拝部分を十二礼と呼んでいます。現在、御懺法講では、声明に合わせて雅楽管楽器である笙(しょう)・箏(ひちりき)・龍笛(りゅうてき)で旋律をなぞるように奏しています。興正派では明治四十五年以降、雅楽打楽器である鞆鼓(かっこ)・太鼓(たいこ)・鉦鼓(しょうこ)を用いて拍子にのせてリズムカルに唱えています。

和蠟燭の炎に照らされ光り輝く荘厳の中で、美しく和した声明・雅楽の調べをお聞かせしたいと思います。

● 古澤巖奉納公演

昨年は観音寺市民会館にて名器ストラディヴァリウスを弾き、世界最高峰ベルリン・フィルハーモニー・ヴィルトウオーゾとの弦楽五重奏で私たちを魅了してくださいました古澤巖さんが再び一心寺に。神のヴァイオリンと称されるその演奏を間近で感じることができ最高に贅沢なひと時です。



●はじめまして仏教 スタート!

日本では総人口の八〇%が仏教信者、仏式で葬儀を出すという統計があります。ほとんどの日本人が仏教と関りを持っていますが、案外、その教えについて知る機会は少ないのではないのでしょうか。学校では歴史として教えられるだけ。親戚から葬儀、法事の風習を聞くことはあっても、その意味まで教えられることは稀でしょう。

普遍宗教として世界に広まり、科学とも相反しないと注目され、二五〇〇年以上の長きに亘り語り継がれている仏教。大切なことに気づかせてくれる何かがあるのではないのでしょうか。文化として宗教として仏教をできる限り分かり易く、お伝えできればと思っています。



★平成三十年開催予定(全日午後二時〜三時半)

- 第一回 五月十三日(日) 「お釈迦さまってどんな人?」
- 第二回 六月三日(日) 「お釈迦さまの教えって?①」
- 第三回 七月一日(日) 「お釈迦さまの教えって?②」
- 第四回 八月五日(日) 「仏像の観方」
- 第五回 九月二日(日) 「インドから中国、日本へ」
- 第六回 十月七日(日) 「なぜ色々な宗派があるの?」

●おてらくごくお寺+落語〜二〇一八

昨年好評を博した「おてらくごく」。大いに笑わせてくださった林家染雀師匠は昨年「繁昌亭大賞」「文化庁芸術祭賞」を受賞されたそうです。落語は仏教のお説教が起源ということもあり、お寺で落語を楽しむ、仏教に触れようというこの企画。今年度は笑福亭松枝師匠、予定演目の一つはお寺を舞台にした「餅屋問答」。それを受けて住職の話、その後にもう一席。是非ご来場ください。

(昨年の染雀師匠)



本堂雨漏り修理報告

昨年、秋の台風で本堂に雨漏り被害がありました。平成八年の修復以来初めてのことで心配しましたが、幸いに屋根からではなく、横の土壁水切りからの浸水。暖かくなってきたので、修理に取り掛かりました。足場にあがる本堂の高さがよくわかります。歴史ある美しい本堂を後世に残したいと思います。



宗祖報恩講報告

雨が降る寒い中での宗祖報恩講。全員で正信偈を誦読。法話は林和英氏（高松市・覚善寺）。

大乘仏教の基本である六波羅蜜、布施（見返りを求めない施し）・持戒（自らを戒める）・忍辱（耐え忍ぶ）・精進（不断の努力）・禅定（心を集中する）・智慧（真実を見きわめる）のお話。

特に智慧について。私たちの知恵と仏さまの智慧は違う。例えば、ジューズを二人で分ける時にどうするか。私たちは知恵を絞ってちよほど半分になるように計ろうとする。仏さまの智慧には必ず慈悲の心を伴う。一人がもう一人にどうぞお先に飲んでくださいと言う。先に飲む人はもう一人のことを考えて半分以上残してどうぞと言う。お互いのことを思い合えば計る必要などないのです。

また布施について、無財の七施、眼施（やさしいまなざし）・和顔施（やさしい表情）・言辞施（やさしい言葉づかい）・身施（礼儀正しい振る舞い）・心施（思いやり）・房舎施（やさしく人をもてなす）・床座施（席をゆずる）のお話。それに加えて耳施（人の話を聞く）が大事であるとも。

仏さまの智慧をいただき暮らすことが、しあわせな人生につながることを学ばせていただきました。



仏教マンガ説法② 「ゆるキャラ」

ひこにゃんやくまモンなど、全国的にはゆるキャラが大人気。このキャラクターという言葉。元の意味は「特徴」や「性質」を表す言葉ですが、特徴といえば仏さまには、指の水かき、長く広い舌、額の白毫などなど、「三十二相・八十種好」といわれる特徴があるとされています。言わば「ゆるキャラ」ならぬ「超キャラ」とでもいえるでしょうか。

しかし、長年、仏像などで育まれた日本人の美意識も変化し、今や「カワイイ！」が最高の褒め言葉になった感もあります。千年後には、ひょっとしてカワイイ仏像が世を席卷しているかもしれませんね。

（佐々木正祥）

